

会 議 録

会議の名称	令和5年度第2回茨木市青少年問題協議会専門部会
開催日時	令和5年11月27日（月） 午後5時00分 開会 午後7時08分 閉会
開催場所	オンライン会議ツール「Zoom」、 上中条青少年センター 3階会議室
出席者	三川俊樹（部会長） 福井齊 内田正俊 辻本恭治 采女桂子 明瀬秀憲 平松克一 藤森潔文 浦野祐美子 ほっとけん！アワード発表者3人 【計12人】
欠席者	山田眞弘 廣瀬憲吾 梅花ゆかり 【計3人】
事務局職員	小田教育総務部長 吉崎社会教育振興課長 稲角社会教育振興課指導育成係長 三好社会教育振興課主査 【計4人】
開催形態	公開
議題(案件)	付託事項の検討 ・ 青少年健全育成運動重点目標の取組状況 ・ ほっとけん！アワードの選出 ・ 青少年育成の現状報告と課題の共有

議 事 の 経 過	
発言者	議 題 (案 件) ・ 発 言 内 容 ・ 決 定 事 項
事務局	【開会】
小田部長	【あいさつ】
事務局	委員出席状況について報告。議事進行を三川部会長に交代。
三川部会長	付託事項の検討についての1点目、「青少年健全育成運動重点目標の取組状況」を議題とする。この件については前回の専門部会からの継続案件となっており、事務局からの説明を求める。
事務局	<p>資料1「令和5年度茨木市青少年育成のための「重点目標と取組状況」(案)」は、専門部会での検討結果を冊子にまとめたものであり、青少年問題協議会に報告した後、市内の各青少年健全育成団体や小・中学校等に配布している。</p> <p>目次のとおり、青少年健全育成運動重点目標の解説や取組状況、青少年団体の活動状況、「ほっとけん!アワード」、青少年対象の行事实績、育成者対象の行事、青少年問題協議会の役割、構成団体や機関の紹介をした冊子となっている。</p> <p>前回の専門部会では、時点校正中の冊子を資料として示した。今回は、冊子全体の構成や前年度からの変更点、時点校正中の内容について示したいと考えている。</p> <p>1ページでは、茨木市青少年健全育成運動重点目標「子どものSOSほっとくん!?大人が気づいて声をかけあう関係づくり」を継続し、市内の青少年を対象とした行事で重点目標を意識し、取り組んでいただくことを目的に、行事の計画時と実施後に自己点検アンケートを記入していただくこと、さらに、この目標を踏まえ、家庭、学校、地域、行政機関が具体的な取組を行い、青少年の健全育成を推進することについて呼びかけをしている。</p> <p>2ページでは、家庭・学校・地域、ネット世界で「子どもの発するSOSのサイン」の種類を記載している。</p> <p>3ページでは、子どものSOSのサインに対する大人の接し方や心がけ、見守りの必要性について記載している。</p> <p>4ページでは、青少年のインターネット利用時間の増加及びSNSに起因する事案の被害児童数の推移をグラフで示し、最新の令和4年度のデータに更新している。</p> <p>5ページから6ページでは、青少年に関する相談、連絡機関を紹介している。各相談機関の役割や担当は異なるが、青少年のSOSを広くキャッチで</p>

きるように、様々な機関を掲載している。連絡先等については、事務局にて分かる範囲で更新しているが、関係機関に最新の情報を確認予定である。

7 ページから 11 ページにかけては、青少年健全育成関係団体の行事に関する自己点検アンケートの集計結果や活動状況について記載している。令和 5 年度における青少年健全育成補助事業は 133 行事となっている。アンケート項目への回答傾向については、前回から大きく変わっていない。要約については、9 ページの「アンケートのまとめ」に記載している。

10 ページでは、コロナ禍の前後での行事計画数と、屋内・屋外での行事の計画状況を示している。

11 ページでは、種目別の行事実施件数を掲載しており、屋外行事を中心に計画されていることがわかる。

12 ページから 14 ページでは「ほっとけん！アワード」の紹介をしている。この後の議事でもある、「ほっとけん！アワード」の選出結果により、大賞や奨励賞の行事内容を掲載し、好事例を地域に発信することを考えている。

15 ページは「ほっとけん！アワード」の実施要領、16 ページは審査基準である。

17 ページから 20 ページにかけては、令和 4 年度分の青少年健全育成事業補助金の対象行事を掲載している。

21 ページから 24 ページにかけては、令和 5 年度の行事計画と実績を掲載している。冊子の完成版の作成に向け、時点校正をしていく。

25 ページは、育成者対象の行事として、青少年健全育成研修会の報告を掲載している。現時点では令和 4 年度の内容を参考として記載している。

今年度の研修については、来年 3 月を予定しており、研修の内容に合わせて冊子の内容を更新する。

26 ページから 29 ページにかけては、青少年問題協議会の役割、関係図、条例、直近 2 年分の協議内容を掲載している。

30 ページには令和 5 年度の青少年問題協議会委員名簿を掲載している。

31 ページから 32 ページにかけては、青少年健全育成の各団体の活動紹介を掲載している。青少年問題協議会参画団体の活動内容について、関係団体や市民に周知するためのものとなっている。記載内容については、令和 4 年度版の内容を一旦転記しているが、今後、内容を更新する予定である。

33 ページでは、青少年問題協議会関係の啓発事業を掲載している。この中では、夏祭りやフェスティバルの巡回街頭指導など、コロナ禍で実施できなかった活動で、現在は再開したものもある。

資料 2 は、青少年健全育成重点目標リーフレット（案）である。これは、学校を通じて家庭に配布するほか、青少年育成関係者に配布し、年度によって内容も更新している。背景やタイトルの色について年度の区別をつけやすいように変更する。

	<p>「こども」の表記については、漢字とひらがなが混在しているが、令和5年4月1日に施行された「こども基本法」の基本理念をふまえ、ひらがな表記の「こども」に修正していく。なお、機関の名称や固有名詞は除くものとする。</p> <p>また、相談機関について、内容の確認と更新を行い、中面に掲載している写真も変更する。</p>
三川部会長	<p>ここまでの内容について、意見や質問はあるか。</p>
明瀬委員	<p>重点目標の見直しを行ったほうがいいといった意見が団体から上がっている。</p>
三川部会長	<p>重点目標のアンケートについてはのちほど議題として取り上げていく。33ページのほっとけん出動・貸出状況についてお聞きしたい。</p>
事務局	<p>前年度は、コロナ禍でもあり着ぐるみの貸出はなかった。イラストを利用したいという声はあった。</p>
浦野委員	<p>着ぐるみがあることを知らない人も多いため、もっとPRしたらどうか。</p>
三川部会長	<p>次に、付託事項の検討についての2点目「「ほっとけん！アワード」の選出」についてを議題とする。</p> <p>各協議会から推薦された青少年健全育成行事について、団体代表者からのプレゼンテーションの後、本日ご出席の委員の皆様へ審査をいただき、大賞「ほっとけん！アワード」及び奨励賞の決定を行う。進行を事務局に願います。</p>
事務局	<p>資料3「令和5年度ほっとけん！アワードエントリー行事」に記載している5つの協議会、小学校区こども会育成連絡協議会、小学校区青少年健全育成運動協議会、小学校区青少年会育成会、中学校区青少年健全育成運動協議会、中学校区青少年指導員会から行事の推薦があった。今回の専門部会では、この5つの行事に対し、大賞1行事、奨励賞4行事を選定するため、委員の皆様へ採点をお願いしたい。</p> <p>会場にて発表に参加いただくのは、西小学校区青少年健全育成運動協議会、春日丘小学校区青少年会育成会、南中学校区青少年健全育成運動協議会である。ご都合がつかなかった天王小学校区こども会育成連絡協議会、西陵中学校区青少年指導員会については、団体の方からアピールポイントなどをお伺いしており、事務局から説明を行う。</p> <p>発表から採点の流れについて、各協議会より推薦を受けた団体よりエントリーシートに基づいて5分程度で発表をいただいた後、質疑応答の時間</p>

を取り、採点をいただく。この流れを5つの行事に対して繰り返す。なお、採点の際、立候補団体の属する協議会の代表委員は、他の協議会に属する団体行事のみに採点をいただく。

会場参加の委員については5行事分をまとめて採点表を回収させていただき、オンライン参加の委員については12月4日までに事務局へ採点表をメール等で提出いただきたい。後日、事務局にて集計を行い、結果を報告させていただきます。

- 発表順は、
- 1 番目が小学校区こども会育成連絡協議会、
 - 2 番目が小学校区青少年健全育成運動協議会、
 - 3 番目が小学校区青少年会育成会、
 - 4 番目が中学校区青少年健全育成運動協議会
 - 5 番目が中学校区青少年指導員会とする。

それでは、天王小学校区こども会育成連絡協議会の「天子連カーニバル」について事務局から説明する。

事務局
(天王小学校
区校こ連)

当行事は天王小校こ連の大きな行事であり、第40回という非常に歴史の長い行事となっている。事業の目的は、家庭・地域・友達や学生ボランティアと共に工作・スポーツ・ゲームを通して親睦を深めることである。

重点目標の「大人が気づいて声をかけあう関係づくり」を意識した取組のうち「青少年との相談」については、スノードームの中に入れる素材のアイデアをこどもに出してもらい、試作品の確認も一緒に行った。

「青少年の希望を取り入れたか」については、遊びの下準備は大人が行ったが、遊び方はこどもが自由にできるようにし、自主性を重視した。

「青少年の役割」については、用意されたものをそのまま遊ぶのではなく、意見を自由に出してもらい工夫しながら遊ぶこととした。

「青少年への指導と助言」については、想定外のトラブルにも大人だけが対処するのではなく、こどもたちも一緒に工夫してどう遊ぶかを考えるよう指導と助言を行った。

「アピールポイント」としては、当日の雰囲気やこどもたちの意見に合わせて遊び方を変えてみたり、牛乳ぽっくり作りでは下準備を家でしてもらい親子で楽しんでもらえるようにした。スノードーム作りは中に入れる物の種類を多くしてオリジナリティが出るようにした。学生ボランティアも参加し、地域のこどもたちとの交流を行い、学生自身の成長の機会にもなった。学生に参加してもらうことで、より一層の自由な発想や意見を引き出すことができた。学生は大人社会のルールや地域のつながりを知ることができ、大人は青少年の少し先の姿に触れ合うことで理解を深め、より良い関係を築ける機会となった。

「地域等に関する調整や働きかけ、工夫点等」としては、当日は多くの保護者が参加し、作品作りや遊びへのサポートをいただいたことで関係者だけでなく地域の方に支えられていることを実感した。地域と調整し、作成し

	<p>たスノードームを天王公民館の文化展に展示してもらい、地域の方々にこども会活動を知ってもらう取組を行った。こどもたちにとっては自分の作品を多くの人に見てもらえる喜びを感じる機会となった。展示する際には作品のレイアウトに苦慮した。</p> <p>エントリーシートにも記載したように、全体を通してこどもたちの意見を柔軟に取り入れ、大人がこどもの自主性を発揮できるよう促し、工夫して実施した。</p>
事務局	<p>今の説明について、質問はあるか。</p>
藤森委員	<p>40 回続いているということで、その回ごとに作るものや遊ぶものを変えているのか。</p>
明瀬委員	<p>同じ地域の行事のことなので回答する。近年、大学生が積極的に参加され、活動を担ってもらい、非常に幅が広がってきている。</p>
事務局	<p>他に質問はあるか、無ければ採点を願う。</p> <p>次に、西小学校区青少年健全育成運動協議会の「西小学校区健康オリエンテーリング大会」について説明を求める。</p>
西小学校区 青健協 発表者	<p>当行事は、コロナ禍で激減したスポーツイベントを絶やさず継続するため、オリエンテーリングを開催し、地域のこどもから高齢者まで参加できること、地域の健康に貢献すること、地域の素晴らしさを再確認できることを目標として実施した。この目標は十分達成できたと評価している。</p> <p>「青少年との相談」については、以前、健康ウォーキングマップを作製して小学校の児童に渡したことで、何かスポーツイベントをしたいという意見があって、オリエンテーリングをしようと計画した背景がある。その意味で背中を押してくれたのがこどもたちの相談であった。</p> <p>「青少年の希望を取り入れたか」については、児童たちの希望はクイズ形式であること、みんなで仲良く歩けること、しっかりご褒美がもらえることであった。すべての希望を取り入れて実施した。</p> <p>「青少年の役割」としては、児童にポスターを作製してもらい、地域の掲示板に掲示を行った。オリエンテーリング当日もこのポスターをポイントとして活用し、ポスターに隠された情報をクイズ形式にした。</p> <p>「青少年への指導と助言」については、地図を読むことに困っている方がいたら積極的に声をかけてくださいと指導していたところ、指導を超えて、児童が高齢の方の手を引く、未就学児や一般の方をヘルプすることが見られた。大人が動いている姿を見て、中学生の参加者が他の人をヘルプするということが見られ、言葉ではない指導もうまくいった。</p> <p>「アピールポイント」としては、初めて取り組んだ催しでありゼロベース</p>

	<p>からの立ち上げであったが、青健協のみならず、こども会・小学校・公民館・PTAなど、地域との協力があり、うまく連携することによって成功できたと感じている。小学生はポスター作製や問題作成にしっかり貢献し、中学生はスタッフ側として参加してくれた。この行事の目的として健康があり、東西に長い地域を利用して全体に広くポイントを点在させ、長く歩けるように工夫した。ポイントはクイズ形式だけではなく、運動チャレンジという簡単な体操も入れた。</p> <p>「苦労した点、地域等に対する調整や働きかけ、工夫点等」として、一番気を配ったのは交通安全に対する配慮で、茨木警察署に事前相談して、指導いただいた。イベントの周知や保護者スタッフを重点配備することによって安全に配慮し、コースもいろいろ見直して、特に苦情もなくイベントを終えることができた。地域との連携ができ、しっかり結束することができたと感じている。このイベントは昨年1回だけになるが、このノウハウを絶やしてはいけないと思っている。今年のイベントにも昨年の経験が活かされていると評価している。</p>
事務局	今の説明について、質問はあるか。
福井委員	ゼロベースから作られたということだが、打合せはどれくらいの頻度で行われたのか。
西小学校区 青健協 発表者	1週間に1回くらいである。8月頃から打合せを行い、あとはライングループを作って打合せをしながら、時間が迫ってくるともう少し密に集まって作業するなど、全部で3ヵ月くらいかかった。
三川部会長	雨天の対策はどのように想定したか。
西小学校区 青健協 発表者	雨の場合は、未就学児や中学生は参加できないが、小学生は学校内で実施できるようにバックアップ体制をとっていた。
事務局	他に質問はあるか、無ければ採点を願う。 次に、春日丘小学校区青少年会育成会の「第7回春日丘小学校区青少年会親睦スポーツ大会」について説明を求める。
春日丘小 青少年会 発表者	当行事は、春日丘小学校を卒業した中学生に参加を募り、親睦会とスポーツ大会をやろうと総会で決まって実施したものである。目的としては、中学生相互の親睦を図るとともに、地域の大人との交流を通じて、積極的な地域活動への参加を活性化することである。今年は体育館でやるニュースポーツということでスポーツ指導員の方からの話でボッチャをやろうというこ

	<p>とになった。体育館でボッチャ、グラウンドでドッジボールのコートを作り、中学生を半々に分けて対抗戦を行った。もう一つの目的としては、地域の行事として位置づけ、みんなが育まれた小学校で集まることで、ふるさと意識をもってもらうことである。</p> <p>「青少年との相談」では、4月の総会で内容について中学生の意見を聞いて、スポーツとバーベキューの実施が決まった。</p> <p>「青少年の希望を取り入れたか」については、バーベキューのメニューで焼きそばやフランクフルトもほしいという意見などを取り入れた。</p> <p>「青少年の役割」については、中学生が会場の準備、まかないの手伝い、ゲームの進行、会場の後片付けなどを行った。</p> <p>「青少年への指導と助言」については、テントの設営方法、機材の出し入れ方法、ゲームの進行やルールについての指導を行った。</p> <p>「アピールポイント」としては、中学生がニュースポーツに親しみ、役割を担ってくれたことである。こういった小学校区での取組があって、ふるさと祭りや地区体育大会で中学生に手伝いを呼び掛けたところ、大勢が集まってくれた。中学生の力は地域行事において欠かせない存在になっており、こどもたちがもっと大きくなって、地域の行事にも積極的に関わってもらえたらと思う。</p> <p>「地域等に対する調整や働きかけ、工夫点」としては、青少年指導員、スポーツ指導員、青健協メンバーなどにそれぞれの立場でご協力いただいた。予想以上の参加があり、ボッチャのときにチーム編成に苦労した。中学生にもっと地域で活動してほしいが、部活動で忙しく、予定が立てにくいことがある。</p>
事務局	今の説明について、質問はあるか。
福井委員	ボッチャは道具が必要であるが、どうされているのか。
春日丘小 青少年会 発表者	中央体育館から借りた。今後は購入する予定である。
事務局	他に質問はあるか、無ければ採点を願う。 次に、南中学校区青少年健全育成運動協議会の「南中学校区フェスタ2022」について説明を求める。
南中学校区 青健協 発表者	当中学校区には3つの小学校、1つの高校、5つの幼保があり、それぞれの事情はあるが意見を統一して実施することになった。 目的としては、家庭・学校・地域の関係を深め、共同関係を構築すること、「みんなで作ろう心のネットワーク」をテーマに青少年の健全育成を図る

	<p>とともに校区の人権文化を構築すること、人々が集い、語り合い、共に活動できる場や機会を提供し、教育コミュニティづくりを進めることとしている。</p> <p>「青少年への相談」については、企画運営や模擬店の応援に中学生に参加してもらい、意見交換をしている。</p> <p>「青少年の希望を取り入れたか」については、出店やゲームコーナーの運営に関わる中学生・高校生の意見などを取り入れている。</p> <p>「青少年の役割」では、中学校の美術部がメインとなりポスターを作製し、高校の美術部は中学校のロビーに作品を展示している。青少年団体のステージ出演に中学生なども加わって参加している。ステージの司会も中学生が担当している。各模擬店等では中学生ボランティアがスタッフとして参加している。</p> <p>「青少年への指導と助言」については、出店やゲームコーナーの運営に関して、ボランティアの中学生に地域の運営者と積極的にコミュニケーションを図るよう助言している。地域の方にも、中学生に活躍の場を設けてもらうようお願いしている。失敗することもあるが怒らず褒めて、来年も手伝いをしたくなるように声掛けをしている。</p> <p>「アピールポイント」としては、地域と子どもたちのつながりを深めるために、実行委員会に幼・保・小・高校の先生方にも参加してもらっていることがある。青健協大会を同時に開催しており、ステージでは園児や中学校吹奏楽部、高校ダンス部などが発表した。そのあとは空手や中学校OBによるバンド、高校の書道部など各団体の演技などをやってもらった。テントでは高校の美術部に似顔絵を描いてもらっており、その横の模擬店では似顔絵を缶バッジにしてもらうこともできる。</p> <p>「地域等に対する調整や働きかけ、工夫点等」では、夜の会議でも多くの方に集ってもらえるよう1時間以内の会議を心掛けている。コロナ禍のために飲食無し、感染防止対策の徹底等の苦労はあったが、模擬店・ゲームコーナー・ステージ発表等、工夫によって従来のフェスタに劣らない盛り上がりがあった。</p>
事務局	今の説明について、質問はあるか。
福井委員	ゲームコーナーなど、どのくらいの数を出されたのか。
南中学校区 青健協 発表者	各小学校で3カ所くらいである。
福井委員	似顔絵や缶バッジなど時間がかかるが苦労はないか。

南中学校区 青健協 発表者	缶バッジの作製キットを用意している。似顔絵以外にも写真やイラストを持ってきてもらって缶バッジにするなど工夫している。
事務局	他に質問はあるか、無ければ採点を願う。 次に、西陵中学校区青少年指導員会の「放課後カフェ（レインボーカフェ）」について事務局から説明する。
事務局 (西陵中学校 区青指会 発表者)	<p>当事業は、放課後に中学校の空き部屋などを利用し、生徒が青少年指導員などの地域の方や先生と交流を行うカフェ事業である。前年度が初の試みで4回実施しており、参加人数は毎回100人程度である。</p> <p>目的としては、放課後の帰宅前や部活動が始まるまでの時間に、中学生がひと息ついて、地域の方と交流を図り、縦・横の関係ではない斜めの関係を作ることによって大人が生徒を見守っていることを伝えることである。</p> <p>「青少年との相談」については、前年度は事前に相談していなかったが、今後希望があれば取り入れる予定としている。</p> <p>「青少年の希望を取り入れたか」については、教室に入りづらい生徒が通うステップルームへ出張カフェを実施し、通いづらさを抱える生徒も参加できるように配慮を行っている。</p> <p>「青少年の役割」については、いつもと違う友達や先生、地域の人とゲームや会話をし、人間関係を広げていくことを生徒の役割としている。</p> <p>「青少年への指導と助言」については、行事のなかで生徒と大人が関心ごとや流行を話すなかで、親や先生とは違った角度からのアドバイスをすることで指導や助言を行っている。</p> <p>「アピールポイント」については、学校関係者や先生方と話し合い、アレルギーの問題など様々な意見や課題がでたものの、それでもやる価値があるとして実施した結果、大勢の生徒が参加してくれたことである。行事に携わった方々からはやってよかったという感想を得ており、その後も毎月実施され、継続事業となっている。</p> <p>「苦労した点、地域等に対する調整や働きかけ、工夫点等」については、開始直後に生徒が殺到してしまうことや、少ない人数で運営しているという苦労がある。一方で、生徒たちが譲り合い協力的であるため目立った混乱もなく行われている。</p> <p>団体代表者から次のコメントを頂いている。「カフェについてはアレルギーのこともあり慎重な意見も出て、コロナ禍で話が一旦止まったものの、お試しでやってみようということになった。1回目はお湯を沸かすのが間に合わないほどの盛況ぶりであった。2回目は将棋やオセロ、ジェンガなどを持っていき、青少年指導員も一緒にゲームをして交流ができた。コロナ赤信号の時期を除いて例月行事となって継続実施しており、他の中学校からも見学に来られ、この取組が広がっていると感じる。」</p>

事務局	今の説明について、質問はあるか。
浦野委員	西陵中青健協の代表をしている。今は中学校だけでの実施だが、これからは地域の方と子どもたちとの交流が深まるように、コミュニティセンターなどを利用して交流活動を広げていく構想がある。
三川委員	地域の人たちの感想はどうか。異世代の交流は大変興味深い。また情報が何かあればご教示をお願いしたい。
事務局	他に質問はあるか、無ければ採点を願う。ここで発表者は退席となる。集計結果については後日、事務局よりメール等で委員の皆様へ報告する。
三川委員	次に、付託事項の検討についての3点目、「青少年育成の現状報告と課題の共有」を議題とする。各委員からそれぞれの現場等における青少年育成の現状について報告いただき、課題の共有を図りたい。では、委員より発言を求める。
福井委員	コロナの影響で不登校が増えた。HSP傾向の子も増えている。大勢の中に入るのが苦手な子、ちょっとしたことでもびくっと反応してしまう子、声が怖く感じてしまったり、自分のことを言われているのではと思い悩む子が多いなという印象がある。普通に登校するのがしんどい子が自分の居場所として学校に居られる放課後カフェのような取組は効果的だと感じる。放課後カフェと連携し、多世代と交流する取組があるといいと思う。
明瀬委員	天王中学校でも真似をして先日カフェを開催した。試験の最終日に開催して、試験を受けに来ている子で、なかなか学校に来られない子が興味を持って一番にのぞきに来てくれた。そういった子が来られたことで先生も喜んでくれた。
平松委員	不登校の問題がある。ひと昔前に比べると、行きたくなかったら無理に行かせる必要はないという風潮が出てきていると感じる。 おにクルという施設ができて、子育て施設や図書館などが入っているが、社会教育振興課や教育委員会としておにクルの活用のビジョンはあるか。
事務局	二十歳のつどいを開催する予定であり、他にも青少年分野で連携できることはあると考える。 図書館はこれまで各館でも不登校児童の居場所になっている。家庭に事情があるのではないかとと思われる事例もある。不登校児童の居場所としても有効活用できると考えている。

明瀬委員	<p>中学生は勉強や部活がメインになる。学校全体で参加する行事であればいいが、何か地域の行事をしようとしても時間をとるのが難しい。もっと地域の活動に参加してもらいたい。</p> <p>また、啓発リーフレットを作っているがうまく活用できていないと感じる。もっと活用を広めるようにしないと、作って配るだけというのはもったいない。</p>
事務局	<p>地域の行事と学校の兼ね合いであるが、中学校になると部活で結果を残すことが高校入試に関わるということがある。部活やテスト直前など参加が難しいこともあるのかと感じる。方針としては、地域にどんどんと子どもたちが関わってもらいたいので、うまく関わっていけるように教育委員会としても努力していく。</p>
三川部会長	<p>次に、前回専門部会で提示された、青少年健全育成重点目標に関する委員アンケートについて、事務局から説明を求める。</p>
事務局	<p>資料4に基づき、説明と報告をする。このアンケートは、現在の重点目標「子どものSOSほっとくん!?大人が気づいて声をかけあう関係づくり」に関して、専門部会委員の皆様にご意見を伺うために実施したものである。</p> <p>アンケートは3つの項目から1つを選択していただく形とし、</p> <ul style="list-style-type: none"> 1番 重点目標は現行のままでよい 2番 重点目標は変えたほうがよい 3番 重点目標のことより青少年問題協議会の取組内容の工夫について議論したほうがよい <p>となっている。</p> <p>アンケートの回答結果として、1番に9つ、2番に2つ、3番に1つの回答数となっている。多くの委員が、現行の重点目標の継続に言及される結果となった。よって、現行の重点目標を継続していきたいと考えている。また、重点目標の浸透や定着については、現在行っている自己点検アンケートの結果に注目していきたい。</p>
三川部会長	<p>アンケート結果はこのようになったが、積極的に活用できるように貴重な意見もいただいている。引き続き検討できたらと考える。</p> <p>付託事項の検討については、本日いただいた意見を次回の青少年問題協議会で報告する。異議はないか。</p> <p>< 異議なし ></p>
事務局	<p>令和5年度茨木市青少年問題協議会は、令和6年1月30日に開催予定と</p>

している。決定次第、改めて通知する。

以上をもって、令和5年度第2回茨木市青少年問題協議会専門部会を終了する。